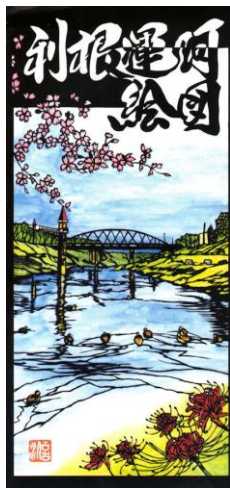


「地図豆」の地図を広げて街歩き

### 38-1 利根運河と周辺の谷津の自然にふれる（自転車利用 距離約18km）

1890年に、オランダ人土木技師ムルデルによって船運を目的とし利根川と江戸川を結ぶ水路として開削された、日本初の西洋式運河「利根運河」の歴史とその周辺の自然に触れる歩き。



「利根運河絵図」・ムルデル・概要図

#### 地図豆知識：利根運河

利根運河は、千葉県柏市、流山市、野田市を流れる利根川と江戸川をつなぐもので、日本初の西洋式運河である。運河の調査にあたったのは、1873年（明治6年）に来日したオランダ人の土木技術者のヨハニス・デ・レーケ、工事を監督したのは、1879年（明治12年）に来日したオランダ人技術者のローウェンホルスト・ムルデルである。竣工は1890年で、当時は利根川と江戸川を航路として利用され、付近一帯は船頭や船客相手の料理屋、食品店、雑貨屋、回船問屋などが立ち並んだという。

その後、常磐線の開通（1896年）、総武線の開通（1897年）により、銚子から本運河を経て東京へと荷を運搬する航路は、急激に衰退した。したがって、運河の最盛期は開通から1910年（明治43年）頃までのわずか20年程度であった。

#### 地図豆知識：A. T. L. ローエンホルスト・ムルデル（1848-1901）

ムルデルは、オランダ人土木技師。お雇い外国人として1879（明治12）年に来日。ファン・ドールン、エッセル、デ・レーケらのオランダ人技術者とともに、明治期の日本において港湾や河川の事業に従事した。

オランダに一時帰国したほぼ1年間を除いて、約11年間日本に滞在し、その間多くの水

カ工学プロジェクトに携わった。しかし、ムルデルの顕著な活動は三角港と利根運河だけで、評価は高いものとなっていないようだ。それは、彼の仕事の大半が内務省あるいは地方自治体に助言を与えること、主に調査や計画を担当することであって、作業を監督した工事は三角港の築港と利根運河の開削に限られたからだ。



利根運河

### 【道順と案内】

00 東武野田線運河駅→01 江戸川河川事務所運河出張所→02 理窓会記念公園へ→03 理窓会記念公園→04 国道 16 号線を渡る→05 西三ヶ尾谷津など→06 煉瓦作りの樋管と利根運河水門→07 大青田湿地から妙見神社へ→08 眺望の丘から花の回廊へ→09 利根運河館下浮き棧橋と割烹新川→10 西深井湧水からタゲリの田んぼ→11 江戸川を見る→12 窪田酒造・味噌醤油→13 利根運河交流館から運河駅へ

#### 00 東武野田線運河駅

東武野田線運河駅を起点として利根運河の周辺を訪ねる。

#### 01 江戸川河川事務所運河出張所

運河出張所には、利根運河交流館が併設されている。ここで、美しい「利根運河絵図」入手して水辺歩きを本格的にスタートする。休日にはレンタサイクルの用意もある。周辺は、桜並木のある運河水辺公園として整備され、その一角には、明治 41 年（1908 年）の建立で、山縣有朋題字による利根運河碑のほか、オランダ人技師ムルデルの銅像もある。

#### 02 理窓会記念公園へ

運河の北堤を東へ進む。東武野田線を越える前に、なぜか福の神（ビリケン）像がある。しばらくの間、堤の道を進んだのち、建物が途切れた最初の谷津から運河の土手を下りて、東京理科大学が創立 100 年を記念して整備したのだという「理窓会記念公園」へと向かう。

### 03 理窓会記念公園

自由に入出りできる公園内の雑木林の散策道は、手入れが行き届いて美しい。カワセミも見ることができる散策道をたどって、いくつかの池の周りを通り、雑木林を経て再び運河の土手へもどる。



ビリケン像・理窓会記念公園

### 04 国道 16 号線を渡る

理窓会記念公園から先は、土手の下に低地に沼や小川が入り組んだ谷津と呼ばれる谷間の風景が広がる。しばらくの間、土手を下りて、集落内にある香取駒形両社や普門寺などを訪ね、国道 16 号線を渡る。

### 05 西三ヶ尾谷津など

その先には、丘陵地と低地が織りなす里山の風景がある。西三ヶ尾谷津、三ヶ尾谷津と名づけられた谷間には、雑木林を飛び交う野鳥、水辺を泳ぐ小魚、谷地に咲く野草などに豊富な自然が感じられる。



西三ヶ尾谷津

### 06 煉瓦作りの樋管と利根運河水門

県道を越えた先にイギリス積み工法を使用したレンガ積樋管が残されている。『明治四拾

『壱歳五月築樋』と刻まれているというが、雑草が生い茂って近づけない。その向こうに、利根川と利根運河を仕切る利根運河水門がある。同水門近くは、「利根運河一里塚」と称する小公園だ。

水門から南東へ下ると、田中調整地（池）の堤に出る。これは調整池・遊水池と堤内地を仕切るための堤防（周囲堤）である。一方東へ延びる堤は、これは調整池・遊水池と河道を仕切るための堤防（囲繞堤）である。利根運河水門からUターンするように運河南の土手を西へと進む。

#### 07 大青田湿地から妙見神社へ

秋の土手にはツリガネニンジンやアザミ、ノコンギクなどの花が咲き、快適な散策道だ。土手下の大青田湿地には、野鳥や野の花のほか、オオタカも生息するという。低地には水を集める水路も見え、その水路は利根運河へと注いでいる。湿地の周囲は斜面林に囲まれ、谷津の景観を示す。

国道16号線を横切ってから、いったん土手から集落へ下りて、妙見神社、円福寺などをたずねる。さらにこの先の集落を抜けて森の美術館へ抜けるのもいい。



花の回廊

#### 08 眺望の丘から花の回廊へ

土手へもどると、前方遠くに「眺望の丘」が見える。桜樹に囲まれた眺望の丘からは、どこまでも伸びる土手の風景が一望できる。最初に利根運河を渡った運河橋の南詰めを西へ進む。この辺りを花の回廊と呼んで、秋の一時、赤、黄色、白、ピンクの曼珠紗華が咲き乱れる。



割烹新川、深井城址

#### 09 利根運河館下浮き棧橋と割烹新川、深井城址

利根運河館下にある運河唯一の水辺を低く渡る浮き棧橋は、誰しも渡って見たくなる。水辺まで下りて水辺の道も歩いて見るといい。土手に接して建つ、どこことなく風情溢れる佇まいの割烹新川が、利根川口や江戸川口には船宿や茶屋など 80 軒を越える店が並んでいたという往時の風景を想像させる。

隣接して、深井城址があり、森中に堀の跡らしきものが見える。

#### 10 西深井湧水からタゲリの田んぼ

土手を西へと進む。流山工業団地の手前で土手を下りると左手に、清水は期待できないが西深井湧水がある。工業団地の西の低地は、タゲリの田んぼと呼ばれて、河川、湿地、干潟、水田などを好むタゲリが生息する水田が広がる。ここは、土手を下りて田の畔をたどるといい。



タゲリの田んぼ

#### 11 江戸川を見てから利根川運河大師

かつて船が行き来していた江戸川は、ゆったりと流れる。近くには、運河河口公園がある。東へとUターンした先の土手は、訪問時にはセイタカアワダチソウが占領していた。土手が右へとカーブする辺りの土手下に利根運河大師堂があつて、たくさん的大師像が並

んで迎えてくれる。大師は、昭和 16 年の大水害による水害で水堰が決壊し、その改修工事に際して堤防上の札所の立ち退きが行われ、結果大師像が四散して所在不明となった。その後、昭和 61 年に、大師像の捜索が行われ、市野谷の円東寺に移されていた 17 体の大師像を見つけてここに移されたという。



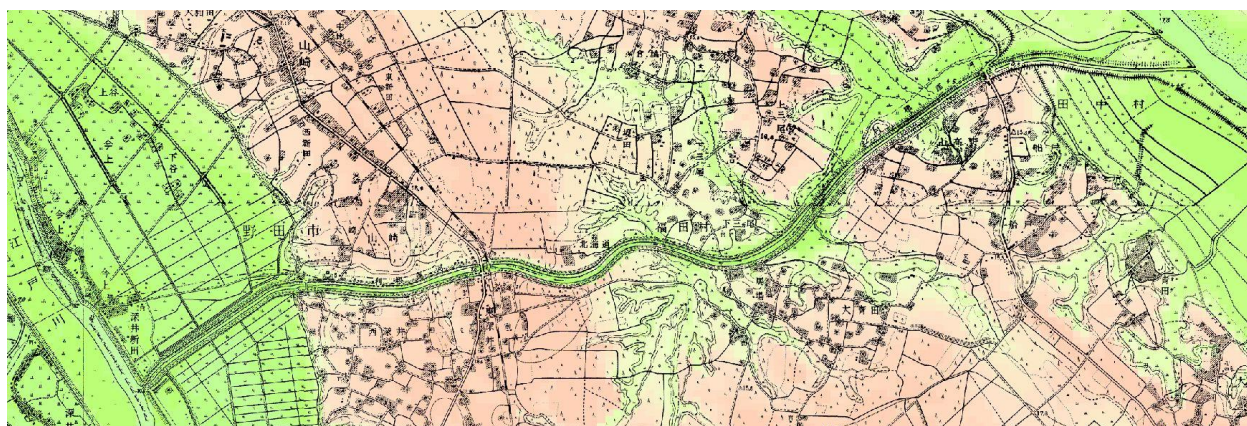
利根川運河大師・窪田酒造味噌醤油

#### 12 窪田酒造・味噌醤油

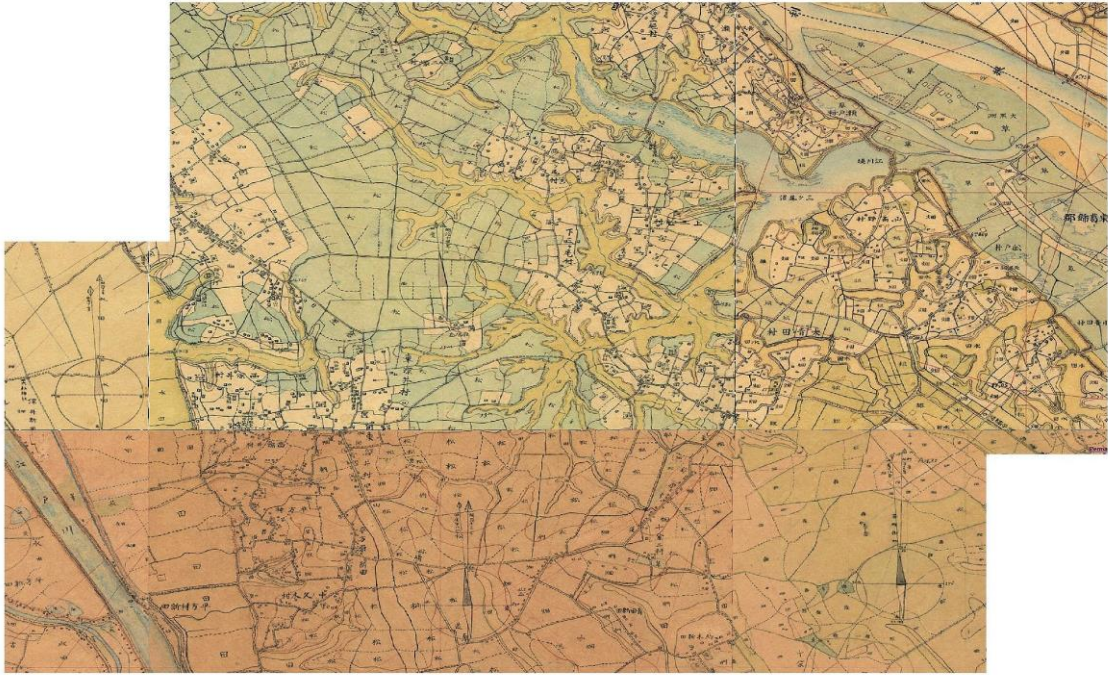
大師堂の先から、土手下に創業 120 年余だという窪田酒造の建物群が続く。味噌醤油の独特の香りと建物を身近にするなら、土手下の道に入るのもいいだろう。

#### 13 利根運河交流館から運河駅へ

再び、運河出張所立ち寄り、オランダ人ムルデルの手になる利根運河のこれまでを復習して、利根運河と周辺の谷津の自然にふれる散策はお終い。



昭和 27 年ころの利根運河（谷津の広がりを利用した運河のルートがよくわかる）



開削前の利根運河周辺（「迅速測図」）

その 38-2 利根運河の水辺の桜へ (東武野田線運河駅～東武野田線運河駅 距離 2.5km)

・ 利根運河



突然の開通、思わぬ閉鎖…

波乱万丈でかけぬけた利根運河の歩み。

全長約8kmにわたる日本最長の「利根運河」は、明治政府のお雇いオランダ人技師「ムルデル」の計画によってようやく日の目を浴びました。民間資本の利根運河会社が創立され、わずか2年間という驚くべき早さで大規模な工事が行われたのです。この運河は、1日100隻を越す船が航行する水上交通の要路として明治23年より利用され、約50年間大変な賑わいを見せました。しかし、鉄道の開通や道路の整備が進むにつれ船の輸送は衰退し、昭和16年の洪水により運河としての機能は事実上失われたため、利根運河はいったん幕を閉じたのです。それから約35年後、北千葉導水事業が完成するまでの間、暫定措置として利根川の流水を江戸川に導水し、東京・千葉・埼玉の三都県の水需要の逼迫にこたえ緊急かつ暫定的に都市用水として利用するとともに水質浄化をはかり、あわせて利根運河の治水機能の活用を図る「野田緊急暫定導水路」として再び利用されることになりました。北千葉導水事業の完成とともに「野田緊急暫定導水路」はその役割を終えますが、引き続き沿川の排水や利根川の洪水を受け入れる分派河川としての重要な役割を担い続けます。



日本一の利根運河の桜と東京理科大学「理窓会記念公園」を散策します。花より団子の人には、2.5kmの歩きでもいいですが、もっと歩きたい人には、緑あふれた道がいくらでもありますから、自由に歩き回ります。

・ その他

利根運河沿いには、大青田、三ヶ尾といった大湿地があり、メダカやフナの泳ぐ小川、野鳥の飛び交う森、そしてクヌギやコナラの雑木林もあって、里山の自然が多く残っています。

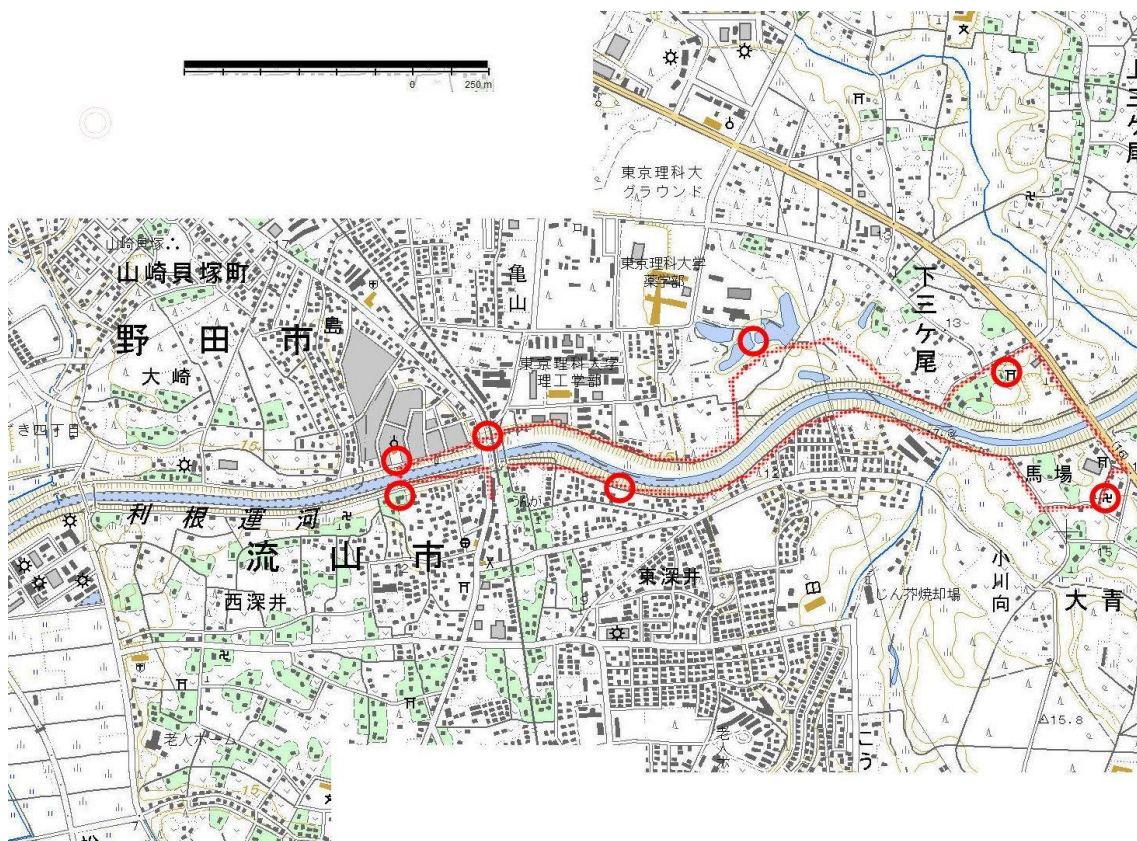


### 【道順と案内】

00 東武野田線運河駅→01 江戸川河川事務所運河出張所→02 理窓会記念公園へ→03 理窓会記念公園→04 国道16号線を渡る→05 西三ヶ尾谷津など→06 煉瓦作りの樋管と利根運河水門→07 大青田湿地から妙見神社へ→08 眺望の丘から花の回廊へ→09 利根運河館下浮き棧橋と割烹新川

### ルートマップ

→



\*\*\*\* オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu \*\*\*\*